

尼崎西RC浦上博隆様、西宮RC北山哲三様、ようこそいらっしゃいました。

先週の南淡路遠征、親睦活動委員会の矢嶋副委員長お世話になりました。

また、参加していただいた皆様ご苦労さまでした。天気が少し悪かったですが、野球とゴルフプレーすることが出来、川崎会員がゴルフで優勝しました。

あと2週間余りでIMの開催です。当日、役割分担がありますが、御協力よろしくお願ひします。

トラックマンは 2003 年にデンマークで開発され、ゴルフ弾道計測器が最初で、米国、欧州での公式計測器となっています。松山美樹もプライベートで購入しています。アメリカの大リーグ全 30 球団がトラックマンを導入し、球場に設置されています。

またアメリカでは野球はセンチ単位のスポーツといわれ、データ野球が高じて、トラックマンや高感度カメラを使用し、グラウンド上の全てが数値化されています。例えばホームランの飛距離、打球の上昇角度、最高到達点という具合です。

そして投手の詳細や、守備の一步目の反応時間などもはじき出します。このシステムを「スタットキャスト」と呼び、2015 年に大リーグ全球団が導入しています。

日本ではトラックマンを7球団が導入していますが、近々全球団が導入すると思われ、情報戦は新時代へ変わっていきます。トラックマンは様々なデータを蓄積し、本格的に運用するには3~5年かかります。また、蓄積されたデータを分析する専門家が必要です。

2014 年、日本で初めて導入した楽天は、外部から専門家を招いていましたが、今年から球団の独自スタッフのみで、運用を開始しました。

最終的に数字を生かすことが大事であり、データを分析する人に加え現場で数字を説明するコーディネーターが必要であり、その人材の教育が重要であり、しっかり役割分担し、体制を整えたチームが強くなると思われます。

尾川さんもお存知だと思いますが、ミズノが 2015 年に開発した「スイングトレーサ」バットのグリップエンドにセンサーを取り付け、スイングのヘッドスピード、ボールの当たる角度など8種類のデータがスマートフォンに送られます。打者には長距離打者、巧打者などタイプがあり、この機器が長所を生かす練習方法やバットの選択などを提案する時代が来るといわれています。

それまでは感覚でしか語れなかったものが、データや数値で示されることが、これから野球はどう変わっていくのでしょうか。

私の頃は、データも分析機器もなく、感覚だけで指導していただいた野球。それもまたよき時代の野球だったと思いますが、私はいまだにアナログ人間です。